

和服に関する研究 (第3報)

既製和服の構成寸法と体型との関連

古川 智恵子・豊田 幸子

A Study on Japanese Clothes (Ⅲ)

Relations between Size of Ready-made Japanese Clothes and Body Type

C. FURUKAWA and S. TOYODA

緒 言

第3報は第2報に引続き既製和服の身幅の構成寸法について調査し、体格や体型に対する適合度について考察を試みた。

方 法

1. 調査の時期及び対象は第1報と同様である。
2. 和服寸法に関して生産企業への聞きとり調査を行った。
3. 既刊和裁書及び雑誌等の算出法による構成寸法指標を作製した。

以上の調査結果より、既製和服寸法と体型との関連性について比較検討した。

結果および考察

1. 既刊和裁書による区分別割出し方 (幅関係)

図1は、既刊和裁書による大裁女物長着の幅関係、すなわち、後幅、前幅、衿幅、袖幅、抱幅の割り出し方法を、各幅を100とした割合で示したものである。

2. 既製和服の調査結果

(1) 幅寸法 (前幅・後幅・衿幅)

大裁女物長着における前幅、後幅、衿幅寸法の調査結果を表1に示す。前幅では、23cmが48%、24cmが40%とこの2サイズで全体の大半を占め、25cmは10%でごくわずかである。後幅寸法では、29cmが全体の82%を占め、次に30cmが11%、28cmが5%、30.5cmが2%の順位である。衿幅寸法では、15cmが約90%と圧倒的に多く15.5cmは11%と少なかった。

(2) 幅の組合せによるサイズパターン

表2は、大裁女物単衣既製和服の前幅、後幅、衿幅の組合せによるサイズパターンを符号にかえ出現傾向を示したものである。即ち最多出現はAパターンの、前幅23cm、後幅29cm、衿幅15cmの組合せによるもので全体の41%を占め、次にBパターンの前幅24cm、後幅29cm、衿幅15cmの40%で、この2種のパターンで、全体の81%を占めている。BパターンはAパターンより前幅寸法が1cm広いサイズ構成になっているが、後幅、衿幅はAパターンと同寸法である。次にCパターンの25cm、30cm、15.5cmの組合せが約12%であるが、前幅、後幅とも前者より約1cmずつ広いサイズ構成になっている。このパターンになると、急激に出現分布

項目	種類	割り出し方法	%		
			30	60	90
後幅	1	$(\text{腰围} - \text{前腰幅} + 2) \div 2$	[Bar chart showing distribution]		
	2	$(\text{腰围} - \text{前腰幅} + 4) \div 2$	[Bar chart showing distribution]		
	3	後腰幅 $\div 2 + 2$ (脇厚みしろ)	[Bar chart showing distribution]		
	4	腰围 $\times 1/3$	[Bar chart showing distribution]		
前腰幅	1	腰围 $\div 2 - 8$	[Bar chart showing distribution]		
	2	腰围 $\div 2 - 9$	[Bar chart showing distribution]		
前幅	1	前腰幅 - 衿幅	[Bar chart showing distribution]		
	2	$(\text{後幅} + 10) \times 3/5$	[Bar chart showing distribution]		
衿幅	1	15cm (規定寸法)	[Bar chart showing distribution]		
	2	腰围から割り出す比例寸法	[Bar chart showing distribution]		
	3	前腰幅 $\times 2/5$	[Bar chart showing distribution]		
抱幅	1	乳頭の位置で右左両体側中央までを実測しその1/2を衿下りの位置でとる	[Bar chart showing distribution]		
	2	胸幅の1/2 (身ハコ口止りから衿の縫目線まで)	[Bar chart showing distribution]		

図1 既刊和裁書による項目別割出し方法 (女物 単衣・袷長着)

の減少が見られる。又、D、E、F各パターンのサイズ構成は、表に示す通り、前幅は23cmあるいは22.5cmで、後幅は28cmと、サイズ構成が前者のA、B、Cパターンより小さい寸法で構成されている。D、E、Fのパターンは、利用度が少ないのか調査結果では3種のパターン全体で8%弱のごく低い分布である。

(3) 既刊和裁書による割出し寸法比較

腰围寸法により算出した和服寸法を表3に示す。和服の幅寸法すなわち、前幅、後幅、衿幅は腰围寸法を基準に導き出されるものであるから、表3欄外(注)の割出し式により、20才平均腰围89cm以上の前幅、後幅、衿幅の各幅寸法を求め、調査結果との比較検討をするための寸法指標を作製した。

前腰幅には、(a)、(b)、後幅には、(イ)、(ロ)の各々2通りの割出し方法があるので、各方法により算出した。工技院成人女子20才の標準体格は、腰围89cm、身長154.9cmである。この場合の(a)の前幅寸法は21.5cm、後幅は(イ) (腰围のゆるみ2cmとした場合)が27.3cm、(ロ) (腰围のゆるみ4cmとした場合)は28.3cmである。又(b)の割り出し方の場合の前幅は20.5cm、後幅(イ)の寸法は27.8cm、(ロ)は28.8cmで、これが標準体格の前幅、後幅の寸法である。

ここで、前項(表2)におけるプレタの組合せサイズパターンと比較すると、プレタサイ

表2 幅の組合せによるサイズパターン

単位 cm

表1 前幅・衿幅の分布

単位 cm					
前幅		後幅		衿幅	
寸法	%	寸法	%	寸法	%
23	48	29	82	15	89
24	40	30	11	15.5	11
25	11	28	5	—	—
25.5	1	30.5	2	—	—
計	100	—	100	—	100

符号	前幅	後幅	衿幅	%
A	23	29	15	41
B	24	29	15	40
C	25	30	15.5	11.5
D	23	28	15	5
E	23	30.5	15	2
F	22.5	28	15	0.5
計	—	—	—	100

表3 腰囲寸法より算出した各幅寸法指標

単位 cm

前腰幅	前幅	後幅	衤幅	腰囲	幅サイズ パターン	
a	36.5	イ	27.3	15	89	
		ロ	28.3			
	37	イ	27.5	15	90	
		ロ	28.5			
	37.5	イ	27.8	15	91	
		ロ	28.8			
	38	イ	28	15	92	D
		ロ	29			
	39	イ	28.5	15	94	B
		ロ	29.5			
	40	イ	29	15	96	C
		ロ	30			
	41	イ	29.5	15	98	
		ロ	30.5			
b	35.5	イ	27.8	15	89	
		ロ	28.8			
	36	イ	28	15	90	
		ロ	29			
	36.5	イ	28.3	15	91	
		ロ	29.3			
	37	イ	28.5	15	92	
		ロ	29.5			
	38	イ	29	15	94	A
		ロ	30			
	39	イ	29.5	15	96	B
		ロ	30.5			
	40	イ	30	15	98	C
		ロ	31			

注) 前腰幅 a) 腰囲/2-8

b) 腰囲/2-9

前幅 = 前腰幅 - 衤幅

後幅 = イ) (腰囲 - 前腰幅 + ゆるみ 2) ÷ 2

ロ) (腰囲 - 前腰幅 + ゆるみ 4) ÷ 2

ズは、標準腰囲89cmから算出した前幅、後幅寸法よりすべて大きく、Aパターンにおける前幅23cm、後幅29cm、衤幅15cmの対応腰囲は92~94cm、Bパターンの24cm、29cm、15cmの対応腰囲サイズは94~96cm、Cパターンの25cm、30cm、15.5cmでは、対応腰囲サイズは96~98cmとなり、プレタサイズの幅構成は、標準より大きい3パターンのサイズで構成されていることが認められた。

(4) 企業その他の和服寸法資料

表4に和服寸法企業サイズ(A社、B社)及び婦人雑誌の和服寸法に対する表示サイズと併せて、従来からの慣習標準サイズを示す。これは調査した和服サイズとの比較考察のために作製したものである。

これによると、A社の身丈は145cm~165cmまでを3段階にわけ、袖丈はいずれも49cmで従来慣習サイズの1尺3寸を採用している。衤丈は身丈145~155cmまでは62.5~63.5cmとなっていて、155~165cmまでの身丈の場合は64.5~65.5の衤丈とし、幅関係では、前幅24cm、後幅29cm、衤幅15cmの組合せパターンが多くみられる。

概して企業サイズ及び婦人雑誌の表示サイズは、従来の標準サイズより1cm程大きい寸法で表示されている傾向が見られた。したがって、この寸法に対応する腰囲寸法を、表3によりあてはめると、94cm~96cmの腰囲サイズであり、従来慣習サイズすなわち標準寸法にお

表4 企業その他の和服寸法資料

単位 cm

種類	寸 関 係			幅 関 係			備考
	身 丈	袖 丈	衿 丈	前 幅	後 幅	衤 幅	
A 社	145~155	49	62.5, 63.5	24	29	15	H 94
	150~160	49	62.5, 63.5 64.5, 65.5	24 25	29 30	15 15	} 96
	155~165	49	64.5, 65.5	24	29	15	
B 社	154	46	64	24.5 (6寸5分)	30.5 (8寸)	15	H
	155	49 (1尺3寸)	66	—	—	15	96
	159	47	65	22.8 (6寸)	30.8 (8寸)	15	} 94
	160	50	—	—	—	—	
婦人向雑誌 表示サイズ	150~165	45~52	62~68	24~25	29~38	15~17	H94 } 96
従来慣習 サイズ	151 (4尺)	49 (1尺3寸)	62.5 (1尺6寸5分)	22.7 (6寸)	28.4 (7寸5分)	15.2 (4寸)	H 92

る対応腰囲は92cmである。

(5) 既製和服の丈・幅構成寸法のパターン

表5は、前報で述べた身丈、袖丈、衿丈に幅構成のサイズがどのように組み合わされているかを調査し、まとめたものである。

身丈、袖丈、衿丈別に対応した幅組合せのサイズパターンをみると、身丈別のどのグループにおいても、幅のサイズ構成は、標準腰囲に対応する幅のサイズより大であるA、B、Cの3種のパターンで構成されている傾向が認められた。これは、大は小をかねることも出来得る和服独特の着装型式のため、幅のカバー範囲をより広くするためであろうと考えられる。

又一方、近年の若者の体型は身長が高く、衿は長く、そのわりに身幅はせまいために、袖付けの傾斜をゆるくして、仕立てを容易にするためではなかろうかとも考えられる。

又一つには、和服を着用する年齢層として若い層も、もちろん対象にはしているが、高価な和服を購入し得る年齢層といえ、やはり中高年層であろうから、体型的に中・高年層のサイズに適合の焦点を合わせてあるためではないかと推考される。

以上の諸点より、衿丈が64cm~65cmの寸法が70%もしめている理由がうなずけるであろう。衿丈について、61~68cmまで11サイズの段階が見られたことを、前報においてのべたが、これは衿丈のカバー範囲が狭いために、前幅、後幅、衤幅のサイズ構成とは異なり、多サイズがみられたものと考えられる。

また身丈との関係を見ると、高率を示した身丈群では、衿丈の64~65cmが70%をしめたが、比較的身丈の短いものには、62~64cmの衿丈の組合せが多く、その他の30%は、各サイズにばらついてみられた。

表5 既製和服構成寸法のパターン

単位 cm

丈の寸法構成				幅の寸法構成				備考	
身丈	%	袖丈	%	衿丈	前幅	後幅	衽幅		%
155	30	49	34		23	29	15	46	A
		50	22						
		45	18						
		47	14						
		46	4						
		48	4						
		42	2						
57	2		25	30	15.5	15	C		
160	24	49	45	64~65 (70%)	24	29	15	56	B
		50	27						
		47	5						
		52	5						
		57	5						
		110	5						
		48	2						
		51	2						
53	2		25	30	15.5	19	C		
55	2								
158	20	49	84		23	29	15	60	A
		47	5						
		50	5						
		60	3						
110	3		23	30.5	15	4	E		
159	10	49	61		24	29	15	43	B
		57	28						
		53	11						
153	5	47	56		24	29	15	56	B
		46	44						
156	3	49	83		23	29	15	100	A
		62	17						
163	2	60	60		24	29	15	60	B
		50	40						
154	1.5	49	34	62~64 (70%)	23	29	15	67	A
		47	33						
		45	33						
157	1.5	49	67		23	29	15	67	A
		47	33						
150	1	45	50		22.5	28	15	50	F
		49	50		23	30.5	15	50	E
152	1	45	50		23	29	15	50	A
		47	50						
151	0.5	45	100		25	30	15	100	C
164	0.5	53	100		25	30	15	100	C

要 約

1. 幅の寸法構成では、前幅、後幅ともに各々4サイズの分布がみられ、前幅は23cmと24cmの2サイズが約90%、後幅は29cmが約80%と圧倒的に多く使われている。

衽幅は15cmサイズが90%採用されている。しかし、以上の前幅、後幅、衽幅の組合わせサイズでは、A、B、C、D、E、Fの6種類のサイズパターンの分布がみられ、中でもA前幅23cm、後幅29cm、衽幅15cm)、B(前幅24cm、後幅29cm、衽幅15cm)、C(前幅25cm、後幅30cm、衽幅15.5cm)の3パターンが多く、約90%使われている。

2. 丈の構成寸法と幅の構成寸法との組合わせサイズでは、高率を示した身丈群(すなわち155cm、160cm、158cm)のどの袖丈寸法においても衽丈は64~65cmまでが約70%をしめ、前幅、後幅、衽幅はA、B、Cの3パターンサイズが主流である。

又低率を示した身丈のサイズ群では、衽は62~64cmサイズで、身幅寸法では高率群と同傾向がみられた。

3. 次に既製和服のサイズを体型との関連でとらえると、前報に示した本学々生の体型計測結果にも見られたように、近年の若者の体型は、身長が高く、衽丈は長く、その割に身幅はせまい。一方、既製和服の身丈は、工技院成人女子20才標準体型に合わせて、従来の慣習サイズよりも長めのものが多く、身丈は体型に適合しているが、衽丈は本学の平均計測値66cmに対し、64~65cmとやや不足である。しかし身幅寸法から算出される対応腰囲は、全国平均値及び本学々生の89cmを上回る92~98cm向けのサイズが主流であり、衽丈及び身幅寸法は中・高年層に適合の焦点が合っている。この理由としては、

- (1) 体型的にも中・高年層は和服の似合う年令である。
- (2) 経済的にも高価な和服購入可能な年令層である。
- (3) 肩幅と身幅寸法との差を少なく、袖付けの傾斜をゆるくして仕立てを容易にするとともに、中・高年層の体格に適合させている。
- (4) 和服独特の調節可能な着装形式のため、身幅においては、大は小を兼ねることも出来、各自の体形に応じて自由に着こなすことができるため等の理由が考えられる。

現在一部の企業では、和装の慣習から除々に脱皮したサイズ設定及び合理化縫製などが開発研究されているが、和服の総生産量に比べるとその量はまだわずかである。

いずれにしても、瘦身、肥満両体型のサイズ分布は少なく、この点が今後の既製和服のサイズ設定の課題であろうと考える。

最後に、本研究の調査にあたり御協力下さった企業及び販売機関の方々並びに本学被服コースの学生に感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 土井幸代：和裁、33~38、同文書院(1977)
- 2) 岩松マス他：和裁、122~125、講談社(1975)
- 3) 岩松マス：和服裁縫前編、47~56、雄鷄社(1974)
- 4) 清水とき：きもの全科、47~49、家の光協会(1974)
- 5) 清水とき：和裁全書、19~20、雄書房(1974)
- 6) 大塚末子：新きもの作り方全書、68~69、文化出版局(1974)
- 7) 東京家政学院和服裁縫研究会：新和服工作上巻、32~33、光生館(1974)

- 8) 田京てる子：和裁の基礎，30～31，衣生活研究会（1977）
- 9) 織田稔子：やさしい和裁，96～97，主婦と生活社（1973）
- 10) 池部芳子他：新和服裁縫，453～455，建帛社（1979）
- 11) 奈良女子大学被服構成研究会：改訂裁縫要義上巻，270，東洋図書（1974）
- 12) 柳沢澄子：被服構成学，125～128，光生館（1979）
- 13) 水梨サワ子：被服構成学，101～114，朝倉書店（1978）
- 14) 高橋春子他：被服構成学，111～113，建帛社（1979）
- 15) 中沢一太：衣生活，No.6，48～53，衣生活研究会（1979）